

持続可能でかつ機能的な交通システムの創造に向けて

「どこかに行く」という行為は、元来、私たち人間にとって必要不可欠な営みの1つです。また、ふと見知らぬまちに行ってみたくとか、一人でふらりと旅したいという気持ちは、古今東西を問わず人々の心を揺り動かしてきました。そして人類は、この欲求にこたえるために、いろいろな技術を発明してきました。より速くより遠くへというチャレンジは、今も続けられています。

ところが、技術が高度に発達してきた結果、交通は私たちに便利な生活環境を提供するだけでなく、私たちの社会にいろいろな負の影響を及ぼすようになりました。例えば、交通から排出される二酸化炭素ガスは、世界の気候までも変えてしまう危険性が指摘されています。こうした問題は、かけがえのない私たちの命と地球を守り、皆がいきいきと暮らせるまちをつくり、そして文化的で豊かな生活を営むためには、是非とも解決しなければならないものです。

「交通学」は、人々の「移動したい!」、という本質的欲求がどこから生じて今後どのように変わっていくのか、どうやってその欲求に対応するのか、という基礎的な問いから、移動の欲求がどのような諸問題を発生させているのか、さらにはその問題はどのようにすれば解決できるのか、という応用的な問いまでを扱う、幅の広い学問です。研究内容について詳しくを知りたい方は、是非とも<http://www.trip.t.u-tokyo.ac.jp/index.html> をご覧下さい。



高校生の皆さんへのメッセージ



加藤 浩徳(かとう・ひろのり)
東京大学大学院工学系研究科
社会基盤学専攻 助教授
kato@civil.t.u-tokyo.ac.jp
<http://www.trip.t.u-tokyo.ac.jp/kato>

交通に限らず、社会性の高い工学分野は、いずれもその裾野がとても広いので、1つの学問分野の考え方だけでは太刀打ち出来ません。また、理論ばかりを語っても現実問題は解決できません。理系、文系にこだわらないこと、理論と現実とをバランス良く学習することがとても重要です。幅広い素養を持った世界的に活躍できる一流のエンジニア/プランナーを目指して下さい。